

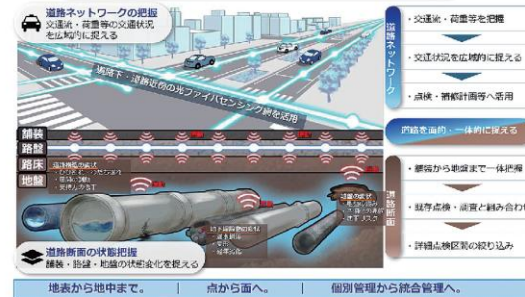
日刊建設工業新聞（2026年10月15日付3面掲載）

【鹿島ら5社 道路維持管理に光ファイバーセンシング データ活用手法を共同研究（オリコンサル）】

道路マネジメントに光ファイバーセンシング 鹿島ら5社がコンソーシアム 管理者目線でデータ活用手法共同研究

コンソーシアムが目指す道路マネジメントのイメージ（報道発表資料から）

日本は、道路管



鹿島ら5社は、光ファイバーセンシング技術を活用した予防保全型の道路マネジメントを確立する。14日付でNTT東日本、応用地質、オリエンタルコンサルタンツ、三菱総合研究所とコンソーシアムを設立した。各社の知見を持ち寄り、光ファイバーセンシングで得られるデータを道路の維持管理に活用する手法を共同研究する。自治体などの道路管理者が導入しやすいモデルの構築を目指す。

光ファイバーセンシングで得られる振動やひずみ、温度などのデータを活用し、道路構造物の状態変化を広域的に把握する手法を検討する。詳細点検と追加調査が必要になる区間の抽出。

による実用化を検討する。応用地質は、路盤・地盤に特化したデータの取り扱いを検証。オリコンサルは、計測監視技術と点検の融合による維持管理の高度化と共に、舗装マネジメントへの適用可能性を探る。三菱総合研究所は、道路維持管理に関する現行ルールとの適合性を整理する。

コンソーシアムとして、一律に既存の既存の点検・調査技術を光ファイバーセンシングに置き換えるのではなく、両方を柔軟に組み合わせるモデルを追求。道路管理者が実際の維持管理

業務で最も使いやすい視点に主眼を置く。